

特集

米国に続くか、 ユニバーサル保険

欧米ではすでに確固たる地位を占めるユニバーサル保険が、

日本にも次々と上陸している。

従来の商品と異なり、保障の自在性が商品メリットとして挙げられるが、

この商品を顧客に提案するためには、販売する担当者や代理店が

新たな商品の仕組みを理解する必要がある。

そこで、この商品を扱う5社が発売にあたり、どのような教育体制を整えたのか、

また実際の販売状況や、マーケットの構築、顧客や職員、代理店の反応など、

これまでの状況をいくつかの視点から検証し、今後の方向性を探っていく。

米国では主力商品として定着

日本でユニバーサル保険がマーケットを確立しはじめています。ユニバーサル保険は1979年に米国で発売された商品で、「一つの契約で保障機能と貯蓄機能が実現でき、加えてインフレにも強い商品」として注目された。現在米国においては、終身保険をはじめとする既存の生命保険を上回る販売シェアを持ち、主力商品としてすでに定着している。

低金利で明確となった 定期付終身保険のデメリット

これまで日本では、護送船団方式とも呼ばれる監督官庁の規制によって、自由な商品開発を行うことが制限されてきた。その結果、多くの生命保険会社が定期付終身保険を中心とした、保障型商品を販売する時代が長く続いた。この間、特約には多少の違いがあったものの、基本的にはどの生命保険会社も同じ内容の商品を販売することになり、消費者側からみると商品選

択の余地はないも同然といった状況であった。

しかし、バブル崩壊後から長く続く低金利によって、従来型の定期付終身保険の限界が見えてきた。市場金利が下がるということは、生命保険においては予定利率の引き下げを意味している。

結果として保険料が上昇することになるが、中でも終身保険は契約時の予定利率が一生継続するため、市場金利低下の影響は極めて大きいものになる。

2000年から始まった 新タイプの商品群

そこで登場したのが、2000年に明治生命（現明治安田生命）から発売された利率変動型積立終身保険『ライフアカウントL.A.』である。現在「アカウント型」と呼ばれる保険の先駆けとなった商品だが、この商品は当時米国で主流となっていたユニバーサル保険を、日本流にアレンジしたものだ。

この「アカウント型」保険は、預金口座のような機能を持つ主契約と、基本的には掛け捨てとなる保障部分とで構成されている。「主契約+更新型特約」という

構成は、定期付終身保険と変わりなく、保険としての仕組みはユニバーサル保険とは異なるものである。

しかし、機能的にはユニバーサル保険と同様に貯蓄と保障の分離を実現しているため、実質的な差はあまりないといえる。

ユニバーサル保険市場の幕明け

こうした中、2001年にはAIGスター生命、マニユライフ生命からユニバーサル型保険が発売された。どちらもアカウント型と比べて利率見直しが月単位となっており、金融商品としての性格が強くなっている。さらに、どちらの商品も主契約がファンドとなっており、新しい仕組みのユニバーサル型保険として市場を切り開いてきた。

昨年秋には、アリコジャパンから本格的ユニバーサル保険が発売され、次いでスカンディア生命（現東京海上日動フィナンシャル生命）からも、変額ユニバーサル保険が発売された。今年1月にはピーシーエー生命からもユニバーサル型保険が発売されている。

「自在性」を特徴とする新たな仕組み

ユニバーサル保険の仕組みは、従来型の「主契約+更新型特約」という構成とはまったく異なるものである。従来型の保険は、保険金額と保険期間（または保険料払込期間）によって保険料が決まるが、ユニバー

サル保険では保険金額、保険期間、保険料のうち、いずれか二つの要素を決めることで残りの要素が決定するものと、保険金額、保険期間、保険料のいずれも相関関係のないものがある。

またアカウント型の保険は、保障部分に10年または15年の更新型特約をセットするため、保障部分に限っていえば、定期付終身保険と何ら変わりはない。これに対し、ユニバーサル保険の保障部分は、ニーズや保険料に応じて自由に設定できる。

これらの中間にあるのがユニバーサル型の商品である。アカウント型の保険では予定利率が1年・3年と比較的長期間固定されるのに対し、ユニバーサル型の保険は予定利率が1カ月ごとに見直されるなど、金融商品としての側面を強化している。また、「主契約+更新型特約」の構成ではあるが、1年更新の特約をセットできるなど、保障部分の自在性もユニバーサル保険に近い。

積立金の増加により危険保険料が逡減

ユニバーサル保険では、契約者が支払った保険料は、契約に関する諸費用が控除されたのち積立金に加算される。この積立金から、死亡保障を買うためのコスト、つまり危険保険料が控除される。

例えば、保険金額1,000万円のユニバーサル保険に契約して、積立金が80万円になったとする。被保険者が死亡した場合は、積立金の80万円は全額死亡保険金として支払われるため、保険金額1,000万円から積立金

【ユニバーサル・アカウント型保険一覧】

会社名	発売年月	タイプ	商品名
明治安田生命	2000年 4月	アカウント型	ライフアカウントL.A.
朝日生命	2001年 4月	アカウント型	保険王
住友生命	2001年 4月	アカウント型	ライブワン
AIGスター生命	2001年 5月	ユニバーサル型	ユニバーサルライフ
マニユライフ生命	2001年10月	ユニバーサル型	マニフレックス
三井生命	2001年10月	アカウント型	ザ・ベクトル
アリコジャパン	2003年10月	ユニバーサル	ISユニバーサル保険
東京海上日動フィナンシャル生命	2003年11月	変額ユニバーサル	投資型ユニバーサル保険 Prime Life
ピーシーエー生命	2004年 1月	ユニバーサル型	PCAプラチナ ユニバーサル